

幼小中つながる通信 vol.54

発行：平成 30 年 10 月 25 日 袋井市教育委員会

幼小中一貫教育が目指すもの(下)

教育長講話（中学校区教員研修会）

夏休みを利用して、幼小中の教員が校区ごとに集まり、意識を共有するための研修会を開催しています。
冒頭、教育長から、全教員に向けてメッセージが伝えられました。
3 回にわたってその内容をお伝えします。



8/3 周南中学校区

なぜ勉強しなければならないのか

「なぜ勉強しなければならないの？」子どもたちからこのように尋ねられたら、皆さんはどのように答えるだろうか。「これからの時代、ちゃんと勉強しておかないと就職できないし、就職できても AI（人工知能）やロボットに使われることになっちゃうよ。」といった具合に、未来に対する不安や恐怖をあおる言葉で子どもたちに勉強を強いてはいないだろうか。

私の場合、「そりゃもちろん遊ぶためさ。将来、より楽しく、人生を遊びきるために、いま勉強しておくことが必要なのだ。人生全体を考えに入れたとき、一番よく遊ぶためにはいま勉強しておくのさ。」と、ある哲学者の言葉を借りて答えることにしている。

来るべき AI 時代は、AI やロボットに仕事が奪われる時代であるという見方もあるが、人間が生存のための労働や単純な作業・事務処理から解放され、多くの時間を自由に使える時代になるという見方もできる。だからこそ、「生きることが面白くすることができる人間」を育てるといふ「目的的教育観」に今立つべきだと考えている。

未来は面白くすることができる

私たちがまず学校でやらなければならないのは、子どもたちに「生きることが面白くする」という主観的で積極的な態度を育て、「好奇心」という心の原動力を蓄えさせるということだろう。そして、その主体性や好奇心を学習に結びけるもの、それが課題解決型の「考える力」の育成を重視したアクティブ・ラーニングにあると思っている。もちろん、考える楽しさを味わうためには、基礎基本の習得（覚えること）が必要だし、考えるための技術（思考スキル）も必要である。

2030 年の社会を想定して策定された新学習指導要領の施行にあたり、未来に対する不安や恐怖ではなく、「未来は面白くすることができる」という夢を抱き、次の一步を踏み出す 15 歳を育てたいと思いませんか。



9/5 袋井南中学校区

◆中学校区教員研修会 鈴木典夫袋井市教育長講話（要旨）3/3 完

